

本年度の重点目標

- ・学習習慣の確立と学力向上の取組みを推進する。
- ・基本的生活習慣を確立し、HR活動・部活動等の活性化を図る。
- ・平成28年度に統合を控え、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域等から信頼される学校運営に努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	「一人ひとりを生かす」魅力ある総合学科の学校づくりを進めている。	A	A	A
	保護者や地域に積極的に本校教育を説明し、信頼される学校経営に努めている。	A	A	A
2 学習指導	予習・復習の徹底を図ることで、学習習慣の確立や基礎学力充実に向けた取組みを行っている。	A	A	A
	検定試験の受験を奨励し、資格を取得するよう指導を行っている。	A	A	A
3 生徒指導	朝の登校指導など、生徒の基本的生活習慣の確立を図る指導を行っている。	A	A	A
	服装・髪などの身だしなみ、挨拶や交通マナーの指導などを適切に行っている。	A	A	A
	いじめの未然防止・早期発見に取組み、いじめのない学校づくりを進めている。	A	A	A
4 進路指導	生徒が個性・適性に合った進路を主体的に考えられるよう進路指導を進めている。	A	A	A
	進路実現のため、各教科の進学補習に加えて小論文指導・面接指導等の充実に努めている。	A	A	A
5 特別活動等	生徒が達成感を得られるよう部活動の活性化を図っている。	A	A	A
	自ら考え、行動できる力を育成し、学校行事・学園祭では生徒が主体的な取組みを進めている。	A	A	A
6 学校図書館	蔵書や図書資料の充実を図り、図書館の積極的活用と利用拡大に努めている。	A	A	A
	読書や本についての広報活動を積極的に行い、読書活動を推進している。	A	A	A
7 保健・安全指導	生徒の健康管理と病気の予防に努め、健康意識を高める指導を行っている。	A	A	A
	防災教育や防災訓練等とおして安全意識の高揚に努めている。	A	A	A
8 人権教育	ホームルーム活動をすすめ、生き生きとした学級、学校づくりに取り組んでいる。	A	A	A
	映画鑑賞やLHRとおして、人権意識を高める指導を行っている。	A	A	A
9 環境教育	日常の清掃活動などとおして、生徒の環境美化に対する姿勢や態度を養っている。	A	A	A
	学校周辺や地域の清掃活動とおして、環境保全ボランティア活動参加に努めている。	A	A	A
10 事務・管理	良好な学習環境を確保するため、施設・設備の適切な維持・管理に努めている。	A	A	A
	電気・ガス・水道や紙の消費削減に努め、エコ製品の購入など環境に配慮した取組みを行っている。	A	A	A
11 その他 学校の取組み	インターネット等の活用や学校説明会、体験入学などによる広報活動を充実している。	A	A	A
	P T Aと学校が連携して、交通指導等の教育活動に取り組んでいる。	A	A	A

(注)・評価表の見方：6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価)ABCDの4段階評価で示す。

3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)ABCDの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・ABCDの基準は、肯定的な評価が75%以上をA、50%以上75%までをB、25%以上50%までをC、25%未満をDとする。

学校のURL : <http://www.shoyo-h.shiga-ec.ed.jp/>

平成27年度学校評価についての学校独自の分析について

滋賀県立彦根翔陽高等学校

・平成26年度より、生徒による「授業についての評価」を学校評価とともに実施したが、その結果については、別紙のとおりである。

問1では、家庭での予習・復習について聞いてみたが、全体の37.2%にあたる生徒が「全くしていない」と答えており、予習・復習の方法について、教科担当者よりていねいに伝える必要があると考える。

問2では、最も得意な教科・科目について聞いて見たが、総合学科における各系列の特色ある科目を中心に得意と感じている生徒が多かった。全体的として、理系科目を得意と感じている生徒は少なかった。

問3では、どんな学習の力を伸ばしたいか聞いてみたが、言語力・思考力・読解力・判断力・創造力をつけたい生徒が多かった。

問4では、授業に集中して取り組んでいるか聞いてみたが、全体の約4分の3の生徒は集中して取り組んでいると答えている。一方で全体の約5分の1にあたる生徒が授業に集中できていないと答えており、授業に集中させることについて各教科担当者が魅力ある授業展開を進める必要がある。

問5では、わかりやすく丁寧な授業が多いか聞いてみたが、全体の約3分の2の生徒は、わかりやすく丁寧であると感じている。一方で全体の約3分の1にあたる生徒はわかりにくく、丁寧でないと感じている。各教科担当者が授業展開について今一度見つめ直し、わかりやすい丁寧な授業に心がける必要がある。

平成27年度学校評価についての改善点

滋賀県立彦根翔陽高等学校

- ・学校経営について
保護者説明会・オープンスクール・学校説明会等で本校の教育活動についてPRする。
- ・学習指導
生徒の学習指導の向上を図るため、基礎学力育成の取り組みを実践したり、放課後等の学力補充を実施する。
- ・生徒指導
担任による生徒全員の個別面談週間を実施し、生徒の把握に努める。また、PTAとの連携による朝登校指導に努める。
- ・進路指導
キャリア教育の推進、保護者懇談会の充実、進路ガイダンスの充実を図る。
- ・特別活動等
生徒会活動および部活動の活性化推進を図る。
- ・学校図書館
教科指導における図書館の利用推進、広報活動の充実を図る。
- ・人権教育
共感的理解・実践的態度育成にかかる取り組みと指導の充実を図る。
- ・環境教育
環境教育の実践推進を図る。
- ・その他
ホームページの内容の充実を図る。また、PTAとの連携事業の取り組みの推進を図る。